

### カテゴリー6対応製品に注目 ブロードバンドコーナーも賑わう

LAN配線ビジネスにフォーカスした展示会「ネットワーク工事機材展」が10月10～11日、東京・青山で開催された。カテゴリー6対応製品や、VDSL対応の工事機材が注目を集めた。

今年で6回目を迎えた「ネットワーク工事機材展 CABLING BUSINESS 2002」(主催・リックテレコム、後援・情報通信設備協会、住宅情報化推進協議会、BiCSi日本支部、日本CATV技術協会)は、今回から名称を変更し、新たにADSL、FTTH、CATV、無線LANなどにも対応したネットワーク工事ビジネスの専門展示会としてスタートした。年々業界からの注目度も高まり、今年は昨年を500人以上上回る3935人の来場者で賑わった。

今年のキーワードとなったのは、今年6月に正式に規格が確定したカテゴリー6対応製品。各社がケーブルをはじめモジュラープラグやパッチパ

ネルなど主力製品を展示した。

通信興業は8月下旬から販売を開始しているカテゴリー6対応「TSUNET1000E」シリーズの多対ケーブルとパッチコードを展示。岡野電線は十字介在を採用した新バージョンのカテゴリー6ケーブルやコネクタ付きケーブルをラインナップ。燃焼時や廃棄時に環境汚染が少ない「エコロジーOKTP-E5シリーズ」も注目を集めた。

また、タイコエレクトロニクスアンプは、施工時に現場での成端が可能な「カテゴリー6モジュラープラグ」を出展したのに加え、MT-RJジャックとライトクリンプ・プラスSCコネクタの施工を実演。多くの来場者とそのノウ



出展社が多かった19インチラックとラック監視システム

ハウに見入っていた。

#### 新製品の測定器も展示

測定器では、東陽テクニカがギガビットイーサネットに対応するハンドヘルドタイプのケーブルテスター「Wirescope350」を展示。フルークはネットワーク障害測定機器「Link Runner」や、10月上旬にリリースしたばかりの「OptiFiber」を出展。光ファイバー・ネットワークの不良解析・検証の両方を1台で行うことができるOTDRということもあり、来場者は説明員に性能や操作法などを熱心に尋ねていた。



今回新たに設置されたブロードバンドIPゾーン



実演コーナーには、配線工事の手ほどきを受けようと多くの来場者が集まった

また、APC JAPAN、摂津金属工業、星野商事、日東工業、河村電器産業、リード、ピージェイシステムなどが19インチラックを紹介。ヤマト通信工業は指紋認証を採用したセキュリティラック「YNRシリーズ」を展示し、生体感知を応用したシステムの信頼性と利便性をアピールしていた。

今年から新たに設置されたブロードバンドIPゾーンにも多くの来場者が足を止めた。トーマンサイバービジネスはLAN構築のための「Home PNA」、「VDSL装置」などを展示。NTT-MEは同社のVoIP電話サービス「Xephion コール・Pro」の音声を実際に体験できるコーナーを設けた。また、ネットワンシステムズはCATV向けVoIP対応ケーブルモデムを展示した。



セミナー、ワークショップも盛況

#### 資格制度の重要性訴え

セミナー会場では、2日間で2コース、計4つのテクニカルセミナーが開かれた。

セミナーでは、CATV技術協会の西山光生規格・標準部長が「すべてのデジタル放送を伝送するケーブルテレビ」などをテーマに初日の講演を行った。

資格取得のためのセミナーでは、情報通信設備協会理事を務めるキンデンの吉本幸男社長が「技術資格認定試験の概要と制度紹介」を、BiCSi日本支部の加藤和夫事務局長が「BiCSi認定資格制度について」を紹介し、工事業業者などに向けて資格取得の重要性を訴えた。

このほか出展社によるワークショップコーナーでは、マスプロ電工が「BS・110℃S対応2600MHz伝送システム」を紹介、タイコエレクトロ



テスター、光ケーブルなどを数多く展示

ニクスアンプは「CAT.6配線・施工上の注意点」などを説明した。パンドウイットコーポレーション日本支社は「オプティクリンプコネクタの製品紹介とSCクリンプの成端実演」を行うなど、2日間で8つのプログラムが開かれ、来場者が熱心に耳を傾けていた。